

会員誕生祝い



■4月生まれ■

木下 裕名誉会員	4月29日生まれ
山上 巖会員	4月5日生まれ
福川 益則会員	4月7日生まれ
林 秀彦会員	4月30日生まれ

皆様おめでとうございます

地区大会

2019年3月31日(日) 地区大会

本会議 ジョイテクトアリーナ奈良
大懇親会 THE KASHIHARA にて



ニコニコ報告

追山重法会長

家内に誕生日のお花ありがとうございました。地区大会お疲れ様でした。植野会員卓話たのしみです。

美並義博会員

春らしくなりましたね。

谷垣嘉輝会員、吉村信男会員、三木武彦会員、山上巖会員、榎木晋作会員

植野洋志先生の卓話たのしみです。

本日は素晴らしい天気、素晴らしい仲間とゴルフを楽しみました。皆様ありがとうございました。

おつかれ！！

津山初雄会員

家内のタンジョウお祝いにきれいな花を頂き有難うございました。ニコニコ

猪上正孝会員

地区大会おつかれ様でした。

小松玲子会員、松川信夫会員、内藤源美会員、金田宗寛会員、植野教夫会員、寺田信弘会員
植野洋志先生、本日の卓話楽しみにしています。

福川益則会員、渡邊巖会員、野阪幸男会員
植野先生、ビタミンの話 楽しみにしております。

ニコニコ

「ビタミンの歴史とビタミン・バイオフィクター協会の役割」

植野 洋志会員

ビタミンの歴史

江戸時代には「江戸わづらい」と呼ばれた脚気が流行してました。食生活が玄米から白米になったことによるのです。明治時代にも脚気は続き、軍隊で流行したのです。海軍の軍医大監だった高木兼寛(かねひろ)が脚気は水兵がかかり、士官は脚気にならないことから、食事に問題があると考えたのです。そこで、海軍は白米の摂取を控え、パンと肉を中心とした食事に切り替え、脚気患者は激減したのです。

しかし、陸軍は白米主義に徹し、日露戦争下では脚気による死者が戦死者の半数を超えたのです。この陸軍の白米推進の中心は、森林太郎(つまり森鷗外)陸軍軍医でした。海軍が陸軍のように白米主義を通していたら、日本は日露戦争でどうなったかわかりません。当時、脚気は夏に流行するなど

の流行性がみられ、東洋の風土病とも、伝染病とも考えられていました。東大医学部の緒方正規教授(まさのり)という方が脚気菌を発見したとあって脚気菌説をとなえましたが、これはのちにブドウ球菌であることが分かりました。この緒方教授は北里柴三郎の恩師です。私たちの緒方先生の直接のご先祖ではなさそうです。海軍の高木兼寛は米食からパンと肉食に変えましたが、本人はタンパク質の供給が大切だと考えていました。この図が高木が見つけた改善食です。このお陰で、海軍の脚気患者数は激減しました。陸軍軍医の森林太郎は、高木の改善食を陸軍で採用すると、多量の肉と小麦が必要になり、すべて輸入しないといけない。それには多額の資金が必要であり、食糧を自給できないような国は亡びる、ということで、栄養評価を見直し、現代の栄養学の基礎となる概念を組み立て、推奨した兵食がこの図です。森の兵食が守られていれば、たぶん、ある程度改善できたのですが、海軍には料理人がいたのですが、陸軍の兵士は「飯ごう」を携帯し、ほぼ自炊だったのが大きな差ではないかと思えます。

大正の末に、島蘭順次郎が中心になり森らが発案してできた「臨時脚気病調査会」を「脚気病研究会」とし、脚気はビタミンB1欠乏であることが明らかになった。ところが当時の日中戦争の拡大による研究費削減で活動は中断された。ちょうど戦争が太平洋戦争になると、不思議と海軍において脚気が急増することになった。どうやら海軍への生鮮食料品の供給が途絶え、缶詰などのいわゆる貯蔵糧品が提供されていたためである。缶詰を作る過程で、ビタミンB1が破壊されることを海軍軍医は知らなかったようで、ビタミンB1欠乏症に陥ったことになる。昔の高木兼寛の「脚気はタンパク質で予防できる」ということを信じた結果である。

玄米から白米になったことで、ある種の化学成分が抜け落ちた結果、脚気になった訳です。この化合物は、1910年に東京帝国大学の農科大学教授の鈴木梅太郎によって米糠から取り出され、アベリ酸(のちにオリザニン)と名付けられました。そのあとビタミンB1(チアミン)となったのです。これはビタミンの最初の発見なのですが、発表論文は日本語だったので、翌年ポーランドのフンク博士が同じものを分離しビタミンと名付けてしまったのです。ビタミンの語源は、生命「vital」とアミン「amine」です。その後、1950年に京都大学の藤原元典(もとのり)がニンニク成分とビタミンB1の結合体であるアリチアミンを発見し、それは体内に入ると、ビタミンB1を供給することでいわゆる安定なビタミンB1の錠剤の開発につながることになるんです。これが「アリナミン」となります。これ以降、脚気は激減した訳です。ちなみに「脚気病調査会」は戦後、「ビタミンB1連合打合会」、最終的に、現在の「ビタミンB研究委員会」と名前を変えて活動し、すでに450回以上の会合が開かれています。

ちなみに脚気と同じように、大航海時代に流行した壊血病ですが、イギリス海軍ではライムジュースを飲んだことで予防できました。イギリスが世界を征服できたといわれているほどの出来事ですね。これは、ライムジュースが提供するビタミンCの効能につながります。ビタミンに関しては、油に溶けるビタミンと水に溶けるビタミンの区別がなされ、ビタミンA, B, C, K, Mなど多様なものが発見されてきました。

